

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

7月

■味噌製造

味噌の輸入量は毎月2ケタの伸びを続けてきたが、一昨年の金融危機の影響から1月～5月累計の前年比はマイナス16%（722ト減少）でした。

■製材

雨期は建築需要が少ない時期でもあり、販売量が減少している。

■製材

需要不振のため工場の操業を短縮している。

■印刷

7月の売上高は、前月と比較して官民共に若干減少した。6月の印刷用紙の総在庫量は210%台と過去にない数量になっている。

■生コン製造

需要の落ち込みが大きく、苦勞している。

■電気鍍金

前年度比の数値は、全項目減少または、悪化となっているが、前月比では10%位のプラスになっているものの、受注は33%程度の減少となつて、既に3勤4休の企業も出ている。

■鉄工

景気の「底打ち」が若干感じられるが、組合員全体で見ると、稼働状況があまりにも低水準下にあるため、厳しい状態が続いている。

■機械部品製造

お盆休み前に若干仕事が増えたが、休暇の為在庫調整程度で景気回復の兆しではない。仕事減のために盆休暇を長くする企業が増えた。

■採石

今年度に入り6月分の出荷量は5月分と比較して若干増加しているものの、他地区（伊豆）との競争もあり、価格の引き下げが起こるなど、予断を許さない状況である。

■総合卸売

低価格志向の反映からかビールの出荷量が減少し、第3のビール

■食肉卸売

国産牛肉・豚肉消費が減少し、売上高が減少している。

■建築材料卸売

前月より更に落ち込む。総選挙などの政権になつても公共事業箱物は更に減少することであろうからセメント・建設関連の厳冬・氷河期はこれからも続くだろう。

■自動車解体

素材（金属）価格が少しずつ上昇している。しかし、車両の仕入価格も上昇傾向にある。

■電気機器小売

デジタル家電も一段落して景況は悪化している。ただ世間の不況感ほどではない。家電業界はまだまだぐまれているのか。

■中古車販売

卸売市場は引き合いが慎重基調。

■流通在庫の減少にはさらに拍車がかかっている。

仕入もさらにセーブするムードが広がり、在庫調整も次第に加速して、引き合いはペースタウンしてくる可能性がある。

■小売

6月下旬より夏物バーゲンが始まった所もあり、7月中旬には頭打ちの状況。ギフト関連も大手が早期受注をするようになり、実際の繁忙時期が下がっている。下旬は、天候が悪く、例年とは違った夏になつてしまった。

■小売

割引セール期間中の売上は増加するが、割引なしの日の売上が落ちるといった、消費者の生活防衛のための価格に対する厳しさがでてきている。

■建設揚重

主だった工事なし、一部に値下がりが出てきた状況。

■遊覧船

アクアラインの土日割引が南房総の各施設の集客度が二極化している。良いのはマザー牧場、シーワールド、南房パラダイス、悪いのは東京湾フェリーで、8月には更なる二極化が進むと思われる。

■一般廃棄物処理

前月比では好転したように思いますが、前年度比では悪化し、厳しい状況です。

■学習塾

夏期講習は一番の収入源だが、少子化の中で塾へ通う生徒と通わない生徒とはつきり分かれてきているので、全体のパイは固定してきている。各塾により増減の差はあるものの、全体としては横ばい状態であるといえる。

■土木建築サービス

依然として、厳しい状況にある。平成21年度事業の発注がはじめている。

■ソフトウェア

引き続き厳しい状況にある。

■建設

受注額は前月と同じであったが、一般入札の影響により、落札率が低下。そして、受注しても利益がでない現象が出てきている。

■貨物運送

はつきりとした梅雨明けとならず、夏物商品の動きが悪いため、運送業も低迷中である。

■輸出入

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。

■輸出

夏休みになったので、成田空港の売上増が少しみられる。